

# 高天報広

## 平成27年度卒業式

3月1日（火）に平成27年度卒業式が執り行われ、校長から一人ひとりに卒業証書が手渡されました。159名が3年間過ごした学び舎を巣立って行きました。

第6回「天馳ける賞」は早坂愛純さんと村岡優哉さんが受賞しました。



卒業証書授与



「天馳ける賞」の両名



思い出深い学び舎を巣立っていく3年生



生徒会執行部による教室の装飾

天童高校の伝統の一翼を担ってきた159名の卒業生をこの度送り出しましたが、4月には新入生を迎え入れます。入学式は4月8日（金）に行われます。

## 学校評価のまとめ（生徒による評価より）

教頭 長谷部 茂

1, 2, 3年を通じ、唯一評価の低い項目が「家庭学習はおおむね毎日行っている」。教員も保護者も「毎日家庭学習をしてほしい」と思っている。生徒も「毎日家庭学習をしたほうがいいんだろうな」とわかっている。なぜ「毎日家庭学習」ができないのだろう。しなくとも済むから甘えてるのでしょうか。

今年も1月に「成人式」が全国の多くの自治体で行われた。「これって、何なんだろうな」と考えた。「ディズニーランドでの成人式」「AKB48の曲を歌う市長」等々。18歳選挙権や安保法制、テロや難民が話題になった年に、「成人」の日に、天下国家を、国際情勢を滔々と論じた市長や議長、成人代表がどれだけいたろうか。「大人」が子どもにサービスして機嫌を取る。「大人」にならせようとしていない。「大人」になる状況を与えていない。

困り感や渴望するものがある、私たちは一念発起して頑張る。ここに視点を置いて考えてみた。

保護者は将来の進路や成績のことを子どもたちと話し勉強の必要性を伝える。教員も口が酸っぱくなるほど勉強の必要性を語る。子どもたちは耳にタコができるほどこの話を聞く。でも切実な困り感や渴望がない。保護者も教員も研修会を繰り返して行い知識と技術を身につけ、よりよい方法、より良い情報を武器に教える。でも切実な困り感や渴望がない。

なら、「与えない」「サービスしない」というのはどうか。

生徒と教師は卒業すると、「教え子」と「恩師」と言われます。師弟関係です。師弟関係というのは信頼関係です。厳しい接し方や理不尽な物言い、直接的な感情の吐露等々もあって作り上げられていくものです。サービスや機嫌取りではない。親子の関係は言わずもがな。

その観点で評価結果をみると、「わかりやすく興味がある授業が多い」の項目も1・2年で評価が低い、教師の教え方に対応するのが教えられる生徒ではないか。授業に向かう姿勢の問題ではないだろうか。

学校や家庭での生活において、この視点でもう一度考えてみることも新しい面が見えてくるのではないのでしょうか。

そして具体的な取り組みの一つとして、昨年も提案しましたが、かなり定着している朝読書をさらに強化しての「一点突破・全面展開」はどうでしょうか。読解力、語彙力、集中力を養うことができるし、一日の始まりの静謐な時間を確保することができる。躰としてビシッと、厳しく徹底してさらに新たなレベルで取り組む。派生していかないだろうか。

### 平成27年度卒業生進路内定状況（3月15日現在）

国公立大学	3名（福島大学1名含）	私立大学	15名
公立短大	4名	私立短大	22名
看護医療系学校	15名	専門学校	44名
公務員	6名	民間就職	45名